

2023年3月期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2023年4月28日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

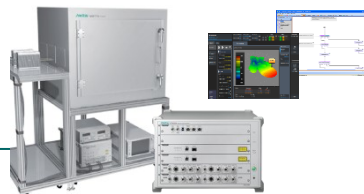
目次

1. 事業概要
 2. 2023年3月期 連結決算概要
 3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）
 4. 当社の取り組みについて
- Appendix

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング & デバイス

(セグメント別売上比率)

2022年3月期 実績 (連結) : 1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

2023年3月期 実績 (連結) : 1,109億円

通信計測 66%			PQA 22%	その他 12%
モバイル 51%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 19%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2022年3月期 実績

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

2023年3月期 実績

日本 15%	アジア他 43%	米州 24%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は1%減、売上は5%の増収。営業利益は29%の減益、当期利益は28%の減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	1,107	1,101	△ 6	△ 1%
売上高	1,054	1,109	55	5%
営業利益	165	117	△ 48	△ 29%
税引前利益	172	124	△ 48	△ 27%
当期利益	128	93	△ 35	△ 28%
当期包括利益	161	133	△ 28	△ 17%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測は前年同期比減収減益、PQAは増収増益、その他は増収減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	733	728	△ 5	△ 1%
	営業利益	152	109	△ 43	△ 28%
PQA	売上高	220	248	28	13%
	営業利益	12	13	1	14%
その他	売上高	101	133	32	32%
	営業利益	11	6	△ 5	△ 46%
調整額	営業利益	△ 10	△ 11	△ 1	-
合計	売上高	1,054	1,109	55	5%
	営業利益	165	117	△ 48	△ 29%

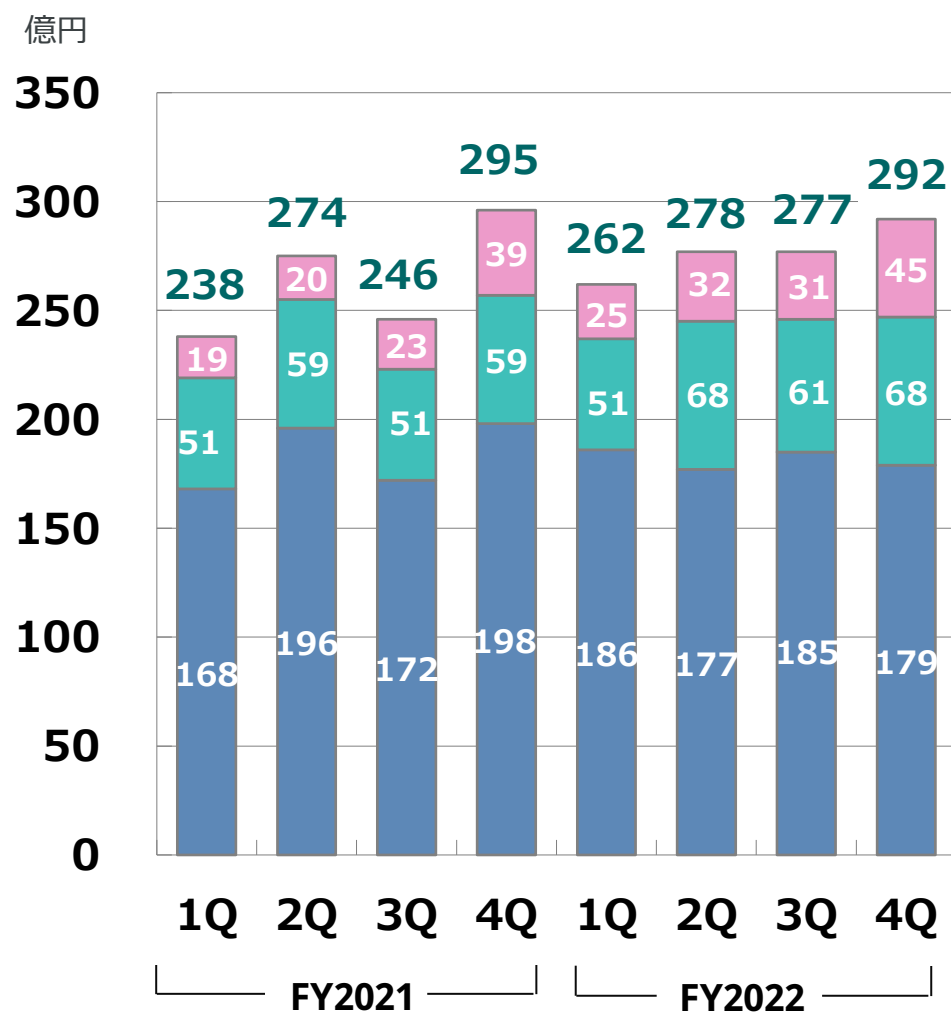
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA : Products Quality Assurance

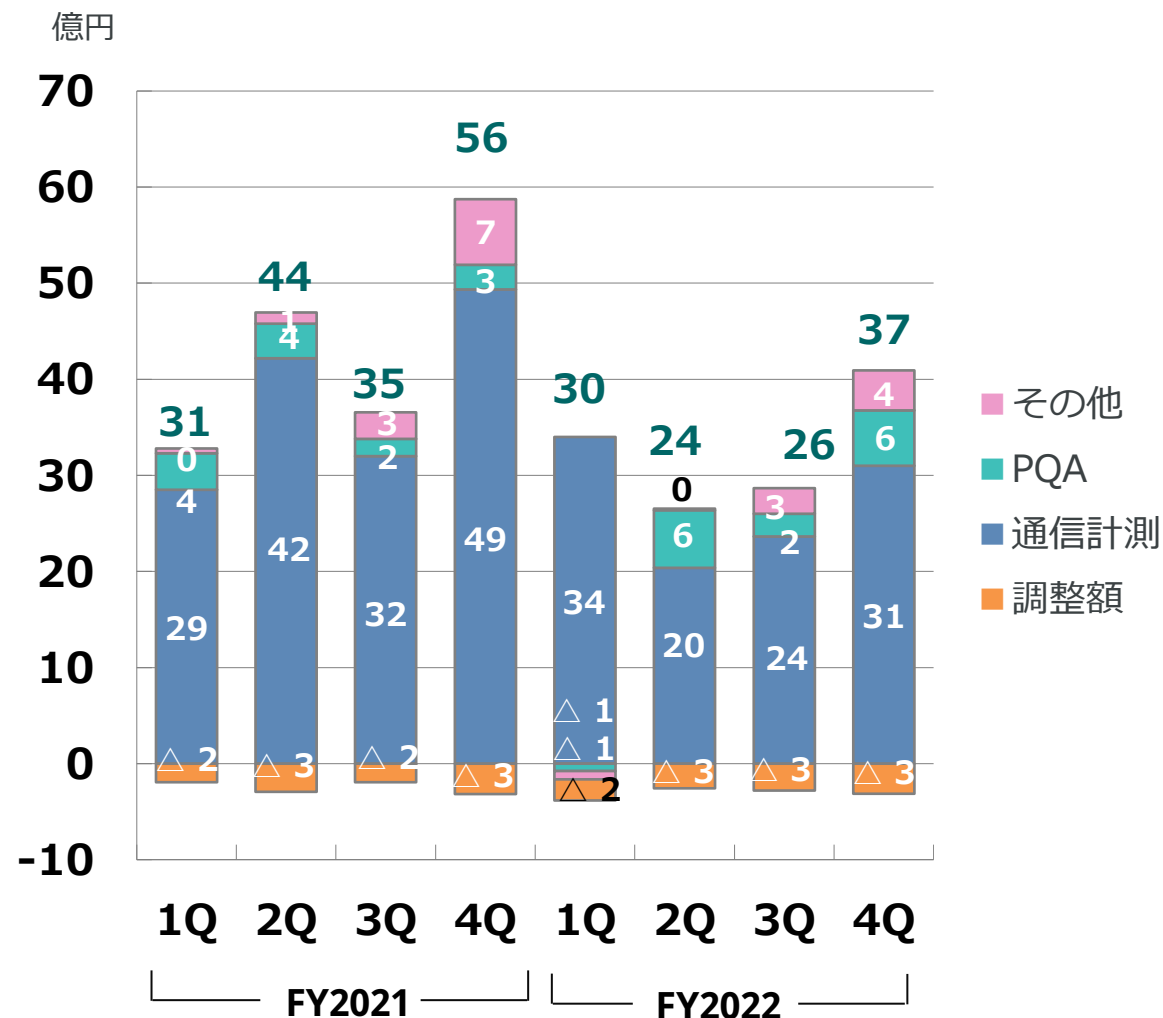
2-3. 連結決算概要 - 四半期毎売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率：連結 13%，通信計測 17%，PQA 8%



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

セグメント 2023年3月期（4-3月）の状況

➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で、顧客は設備投資に慎重姿勢
 固定ネットワークの高速化需要は順調
 部品不足については改善傾向

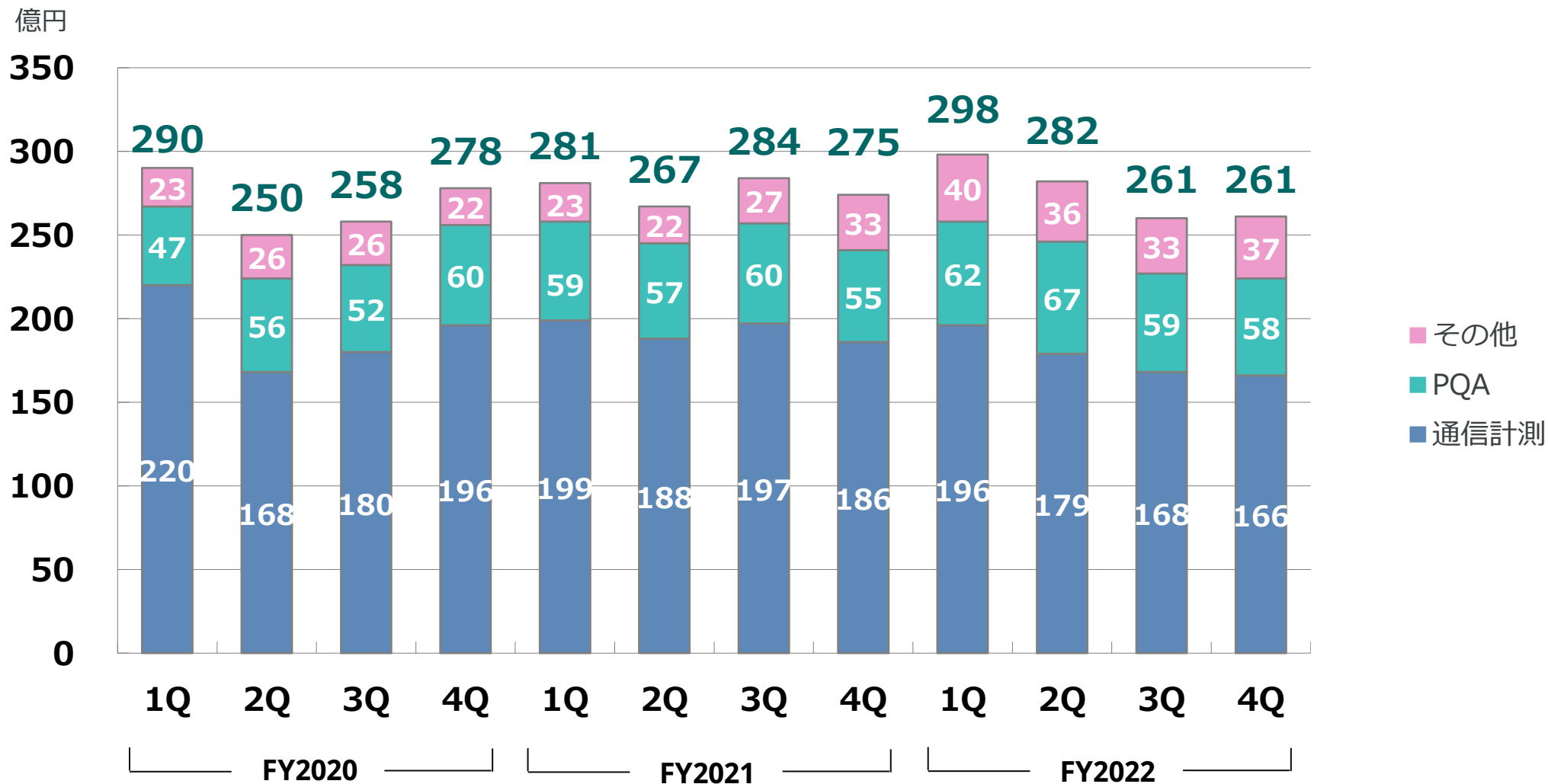
モバイル	経済状況の不透明さに起因する顧客の投資判断の遅れなどにより、モバイル市場の成長が鈍化
ネットワークインフラ	米欧中心に固定ネットワークの高速化への投資は順調に推移
エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中・韓・台の5Gスマホ関連の開発投資が減速傾向 日本は依然として通信計測市場全体が低迷
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 5Gスマホ関連の開発投資にブレーキ

➡ PQA：アメリカでの需要が堅調、アジア・日本も回復傾向

2-5. 受注高推移

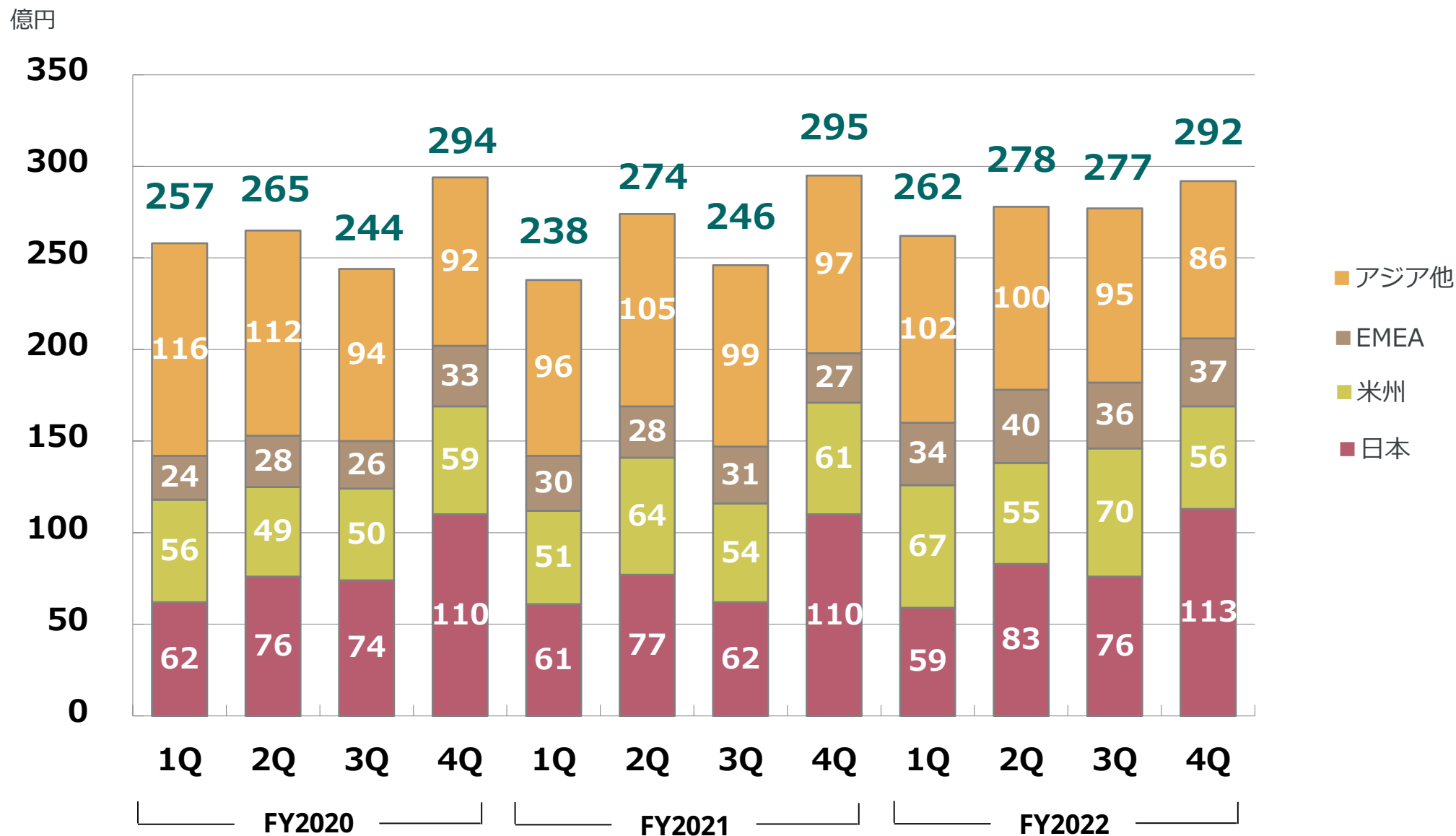
通信計測：前年同期比11%減

PQA：前年同期比 5%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

3-1. 2024年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 新たに開示する環境計測事業を含む主要3セグメント全てで増収増益を狙う

(単位：億円)

		2023/3期	2024/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,109	1,155	46	4%
営業利益		117	137	20	17%
税引前利益		124	137	13	10%
当期利益		93	100	7	8%
通信計測	売上高	728	740	12	2%
	営業利益	109	120	11	10%
PQA	売上高	248	260	12	5%
	営業利益	13	16	3	20%
環境計測	売上高	64	90	26	41%
	営業利益	1	6	5	-
その他	売上高	69	65	△4	△6%
	営業利益	6	5	△1	△11%
調整額	営業利益	△11	△10	1	-

(参考) FY22 為替レート : 1米ドル135円、1ユーロ141円
FY23 想定為替レート : 1米ドル130円、1ユーロ140円

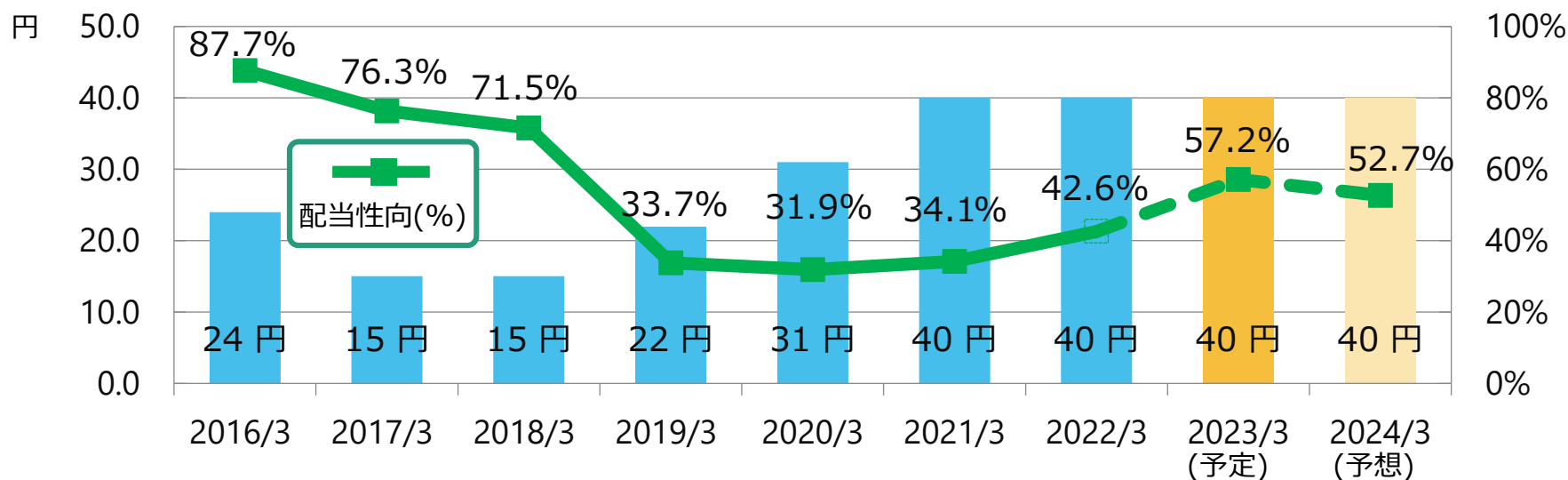
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

3-2. 配当予想について

- 2023年3月期 総還元性向：111%（配当53億円、自己株50億円）

	年間配当	当期利益	配当性向	ROE
2023年3月期	40円	93億円	57.2%	8.0%
2024年3月期	40円	100億円	52.7%	9%

- 剰余金の配当等の決定に関する方針
目標とする連結配当性向を30%以上から50%以上へ変更

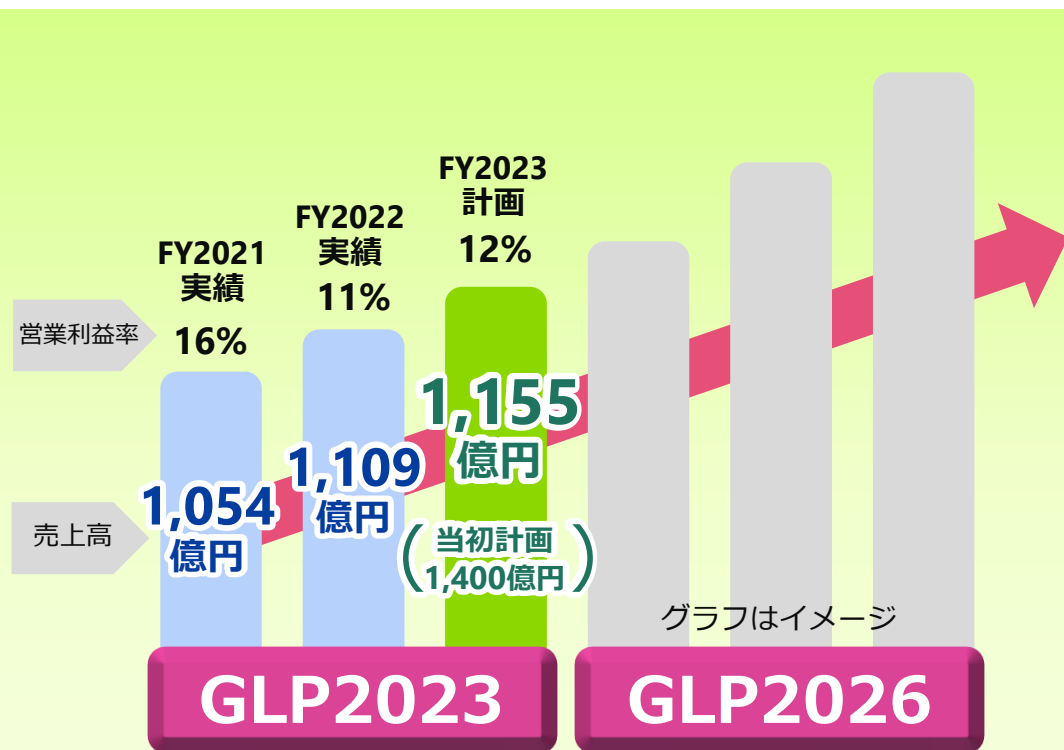


4. 当社の取り組みについて

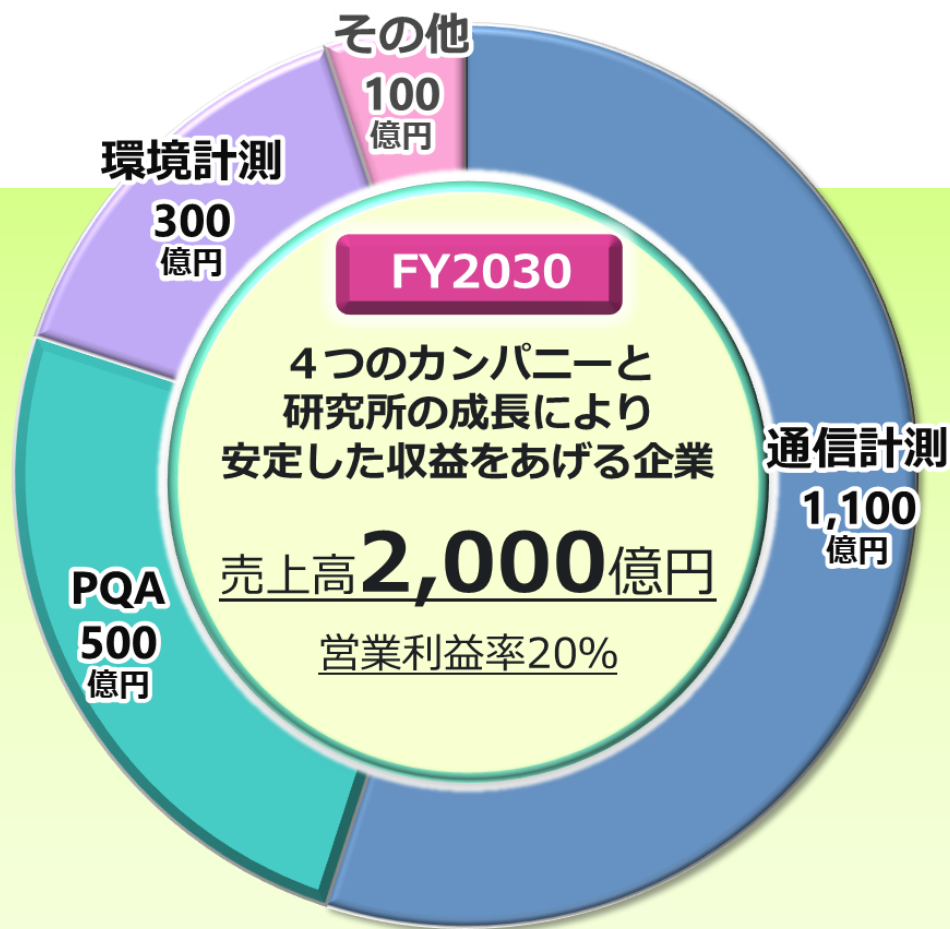
濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



GLP2023の進捗と計画値の変更



FY2030の目指す姿

(M&Aによる成長を含む)

通信計測成長ドライバ

- 6G、IOWN
- 5G利活用
自動運転、スマートシティ
スマートファクトリー、
メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 次世代コンピューティング

PQA成長ドライバ

- 食品市場での
グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ

- EV・電池、
社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

カーボンニュートラル

EV・電池の性能向上と普及、
社会インフラの脱炭素化



産業のデジタル変革

省人化や生産性の向上に向けた
ローカル5G・デジタル技術活用
(スマートファクトリーなど)



社会インフラのレジリエンス

通信・道路・電力・水道・鉄道
など社会インフラ監視の高度化



アンリツグループのコンピテンシーを融合して社会課題の解決に貢献

エネルギー
制御

計測

情報通信



EV・バッテリー開発



スマートファクトリー

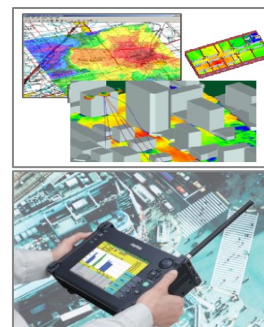


EVパワートレイン
エミュレーション



バッテリー充放電
試験システム

EVの主要部品であるバッテリー、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いられる各種試験装置を提供



ローカル5G
導入・運用・活用
支援サービス



製造DX支援システム

工場の省人化や生産性向上に向けて
ローカル5Gやデジタル技術の導入と活用を支援

4-4. MWC 2023の概要

Mobile World Congress

世界最大のモバイル機器見本市
2023年2月27日～3月2日
バルセロナで開催

MWC
GSMA



NTTドコモ社のブース

主なトピック

- **来場者は2019年の80%まで回復**
202カ国、8万8千人以上の来場者。
- **5G 利活用**
衛星通信サービスやRed Cap (Reduced Capability) 関連の展示
あるいは技術発表が数多く行われていた
- **O-RAN (Open Radio Access Network)**
NTT docomo社による新ブランド「OREX」など、
O-RANに関する展示が多数見受けられた
- **6G センチメートル波**
6Gを見据え、Ericsson社は、7G～15GHz帯 (センチメートル波)
に対応した基地局のプロトタイプを展示



Intel社ブースのO-RU紹介

*OREX: Open RAN Ecosystem Experience

アンリツブースでの展示品の一部を紹介

Automotive

5G対応車載アプリケーション テストソリューション

with

dSPACE社との共同展示で、
自動運転で駐車を行う自動バレーパーキングType-2に準拠した
シミュレーション環境のデモンストレーションを行った。



O-RAN

O-RUの自動測定 テストソリューション

with

※O-RU: O-RAN Radio Unit

実環境に近い
ネットワーク環境における
O-RUの自動測定ソリューションの
デモンストレーションを行った。



ラジオコミュニケーション
テストステーション MT8000A

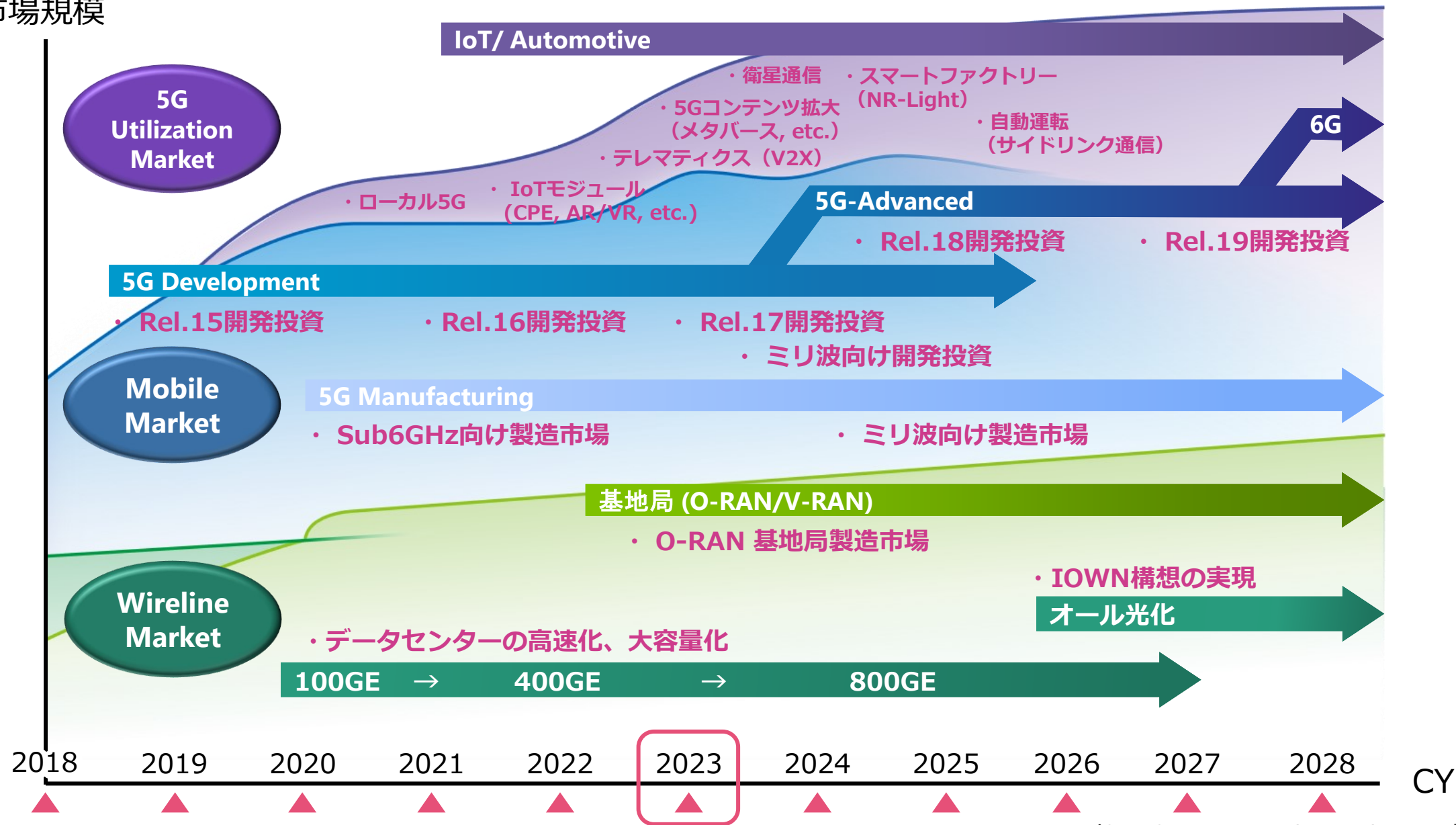


Appendix



Appendix: 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

Anritsu
Advancing beyond

